

《緊急企画》

天理大学おやさと研究所夏期特別講座「教学と現代VIII」

東日本大震災における天理教の救援

事前申し込み不要
入場無料

—全教あげての活動と今後の課題を考える—

【開催趣旨】

3月11日に発生した東日本大震災は、マグニチュード9.0という巨大地震、またこれに伴う大津波により、関東・東北地方に大きな惨禍をもたらしました。さらに被災した原子力発電所の事故のため、放射能漏れが発生し、広範囲の地域に住む人々に深刻な影響を与えています。

本教では、この“大節”に際して、ただちに教会本部、教会系統、教区支部、教友有志のレベルで、さまざまな救援・支援の活動を展開してまいりました。大規模な活動としては、台湾隊も含めたほぼ全教区隊が参加した天理教災害ひのきしん隊の出動がありますが、それ以外にも義援金募集、信者詰所での受け入れ、少年会による「心のケア」など、多種多様な活動が行

われています。

これらの活動は、同じ“一れつきょうだい”である被災者の方々に何とか助かっていただこう、お役に立たせていただこうという、真摯な願いの現われでもありました。未曾有の震災発生から半年近く、今もなおそうした活動は地道に続けられています。

今年度のおやさと研究所の夏期特別講座「教学と現代VIII」では、この半年近くに及ぶ本教の救援活動全体を振り返りつつ、大震災という“大節”をどう受け止めたらよいか、また今後の復興支援に向けて、お道の“ようぼく”として私たち一人ひとりに何ができるかを考えてみたいと思います。

【内容】

講演① 平澤勇一（福島教区長）「被災地からの報告—現状と課題」

講演② 佐藤孝則（おやさと研究所教授）「原発事故による環境汚染の影響」

講演③ 田中勇一（災救隊本部長）「天理教災害救援ひのきしん隊の活動」（災救隊活動ビデオ上映）

パネルディスカッション：「大震災の「節」から「芽」を出すために」

岩手県からの報告 大谷将司（災救隊岩手教区隊長）

宮城県からの報告 高橋伸実（ボランティア団体「ひのきしん」代表）

被災地での心のケア 池田真教（災救隊本部心のケア対策室子供会スタッフ）

コメント：社会福祉の視点から 渡辺一城（天理大学社会福祉専攻准教授）

司会：金子 昭（おやさと研究所教授）

【日時】8月27日（土）

午前8時50分（受付8時30分）～午後4時10分

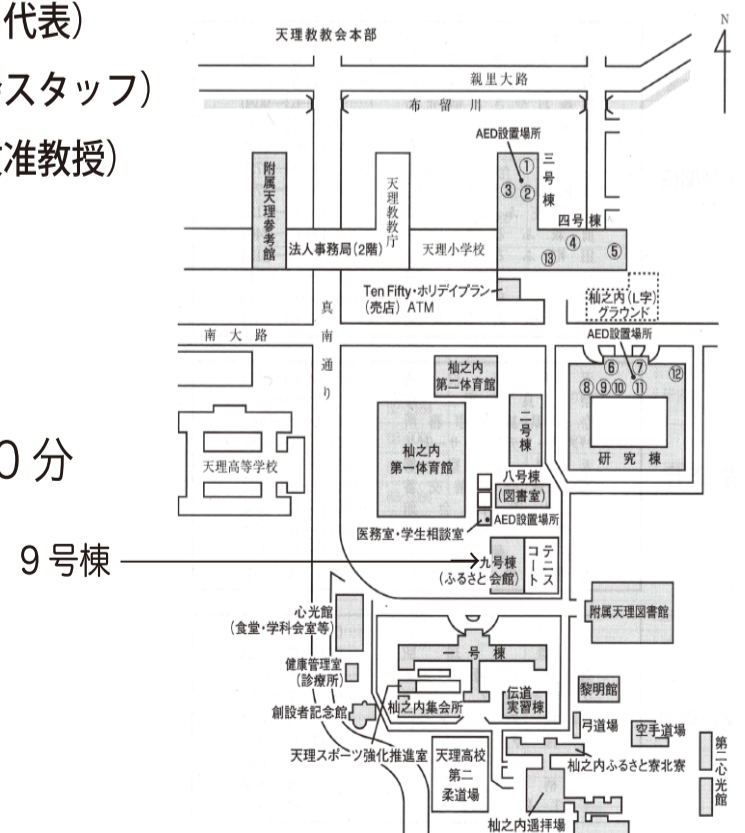
*昼食は大学食堂をご利用下さい。

【場所】天理大学9号棟

（ふるさと会館）ホール

問い合わせ先

天理大学 おやさと研究所天理総合人間学研究室・金子 昭
FAX:0743-63-7255 Eメール :akira-k@sta.tenri-u.ac.jp



皆様のご来聴を歓迎いたします。